



Title	ラットの幼若期卵巣における 5α -androgenの生合成
Author(s)	辛川, 武久
Citation	大阪大学, 1981, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/32946
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名・(本籍)	辛 川 武 久
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 記 番 号	第 5 2 3 1 号
学位授与の日付	昭 和 56 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 5 条第 2 項該当
学 位 論 文 題 目	ラットの幼若期卵巢における 5α -androgenの生合成
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 倉 智 敬 一
	(副査) 教 授 中 川 八 郎 教 授 松 本 圭 史

論 文 内 容 の 要 旨

[目 的]

Eckstein等の研究によると、ラット思春期前期卵巢ホモジネートにおいては、Progesteroneからの 5α -Androstane- 3α , 17β -diolの生合成が高く、思春期後卵巢では、このSteroidが見い出せない。その上、思春期前ラットの末梢血中に、このSteroidを見出している。また、 5α -Androstane- 3α , 17β -diolをラットに投与すると、Gonadotropinの分泌が抑制されることが知られている。これらの結果より、これらのsteroidsが思春期前卵巢でつくられ、子宮を増殖させないでGonadotropinの分泌を抑制していることが考えられる。以下の実験によって、この幼若期ラット卵巢における 5α -androgenの生合成は、 5α - C_{21} -steroidsの側鎖断裂によって生じることを、明らかにした。

[方法ならびに成績]

ラット卵巢ホモジネートを用い ^3H -Progesterone ($1^{\text{n mol}}/1\mu\text{Ci}$)を基質とし、NADPH存在下でincubation実験した。各Steroidsは種々のクロマトで分離し、再結晶法で同定した。生後1週、3週、4週(思春期前)では、Progesteroneの15~30%が C_{21} - 17-OH -steroidsに、5, 30, 20%が C_{19} -steroidsに転換されている。生後6週、10週(思春期後)では、これらのsteroidsは1%未満になる。また1週、10週では、 Δ^4 -AndrostenedioneとTestosteroneに各々2.9, 0.6%が、 5α -reduced- C_{19} -steroidsには各々1.8, 0.0%が転換される。ところが3週、4週、6週では、これら C_{19} - Δ^4 -3-ketosteroidsは見い出せず、Androsterone, Androstane- 3α , 17β -diolのような 5α -reduced- C_{19} -steroidsが20~30%もの高値となる。その上、 5α -reduced- C_{21} -steroidsの全 C_{21} -steroidsに対する比率が、3週、4週、6週では高く、1週、10週では低いという事は興味深い現象である。

組織学的検索では、思春期前では卵胞と間質細胞がみられるが、思春期後では黄体が出現している。以上の事から思春期前ラット卵巢では、Progesteroneが 5α -reductionを受け、この 17α -hydroxylationと側鎖断裂により 5α -reduced- C_{19} -steroidsが生合成される事が考えられる。したがって、この経路での生合成を証明するために、time course studyとdouble isotope実験を行った。生後28日のラット卵巢ホモジネートを使用したtime course実験では、Progesteroneが直ちに消失している。 17 -OH-Progesterone、 Δ^4 -Androstenedione、Testosteroneは全incubation期間を通じて殆んど現れないがProgesteroneの 5α -reduced Product、 17 -OH-Progesteroneの 5α -reduced Productが順次増加し、ついで減少を示す。ところが 5α -reduced- C_{19} -steroidsは増加をつづける。 ^{14}C -Progesteroneと ^3H - 5α -Pregnanedione単独では、共に高率に 5α -reduced- C_{19} -steroidsに転換される。 ^3H - 5α -Pregnanedioneと ^{14}C -Progesteroneを同時に使用した実験における $^3\text{H}/^{14}\text{C}$ 比を検索した。 5α -reduced-steroidsにおける比率が下がる事は、 Δ^4 -3-Ketosteroidsからの転換が起った事を示す。Androsteroneの比率は、 17 -OH-Progesteroneの 5α -metabolitesの比率と比較すると軽度の減少しか示さない。したがってAndrosteroneは主に 5α -reduced- C_{21} - 17 -OH-steroidsの側鎖断裂により生合成されたことになる。

[総括]

Weisz等は、生後5～10日と100～200日のラット卵巢では、in vitroにおけるProgesteroneからEstrogenへの転換が高く、20～30日では低いと報告している。Meijs-RoelofsとR. Welschenによると血中Estradiol- 17β は生後20～35日で極く低値をとるが、生後15日に卵巢摘除を行うとGonadotropinは非常に増大すると報告している。AndrostenediolsはEstrogen生合成には役立たないが、Gonadotropin分泌に抑制的に働く事より、20～30日ではAndrostenediolsが増大する事でこの現象がよく説明される。McCannやWeisz等は、思春期発来は、中枢におけるEstradiol- 17β に対する感受性の低下によって起ると言っている。しかし、幼若期卵巢において、Gonadotropin分泌を抑制するがEstrogenの前駆物質にならない 5α -reduced- C_{19} -steroidsが、 C_{19} - Δ^4 -3-Ketosteroidsを殆んど経ずに生合成される事は、中枢のみならず卵巢レベルでの思春期発来の調節を示唆する。

論文の審査結果の要旨

著者はラットの幼若期卵巢において、Gonadotropin分泌を抑制するがEstrogenの前駆物質にならない 5α -reduced- C_{19} -steroidsが、 C_{19} - Δ^4 -3-ketosteroidsを殆んど経ずに 5α -reduced- C_{21} -steroidsの側鎖断裂によって生合成される事を報告した。このことは中枢のみならず卵巢レベルでの思春期発来の調節を示唆したもので、生殖生理学上一つの新しい知見を得たものとして評価しうる。